

自著と  
その周辺

## 心臓腫瘍学

総編集 天野 純  
編集：中山 淳，池田宇一

南山堂  
423頁  
2011年  
定価 20,000円

私が信大生の頃は、第一、第二病理学講座があり、実習はいずれかの講座を選択することになっていた。循環器に興味があり、那須 毅教授とそのスタッフの先生方が学問や教育に熱心に取り組んでおられたため迷わず第二病理を選択した。実習後も、病院で病理解剖があると下宿まで連絡していただいて、解剖に立ち合わせてもらい、大抵夜中に行われる解剖中に先生方から病理について教えていただくだけでなく、学問に対する心構えについても教わった。

このような学生時代に受けた教えから、外科を専門とするようになっても病理学に興味をもち、とくに血管の分子生物学を研究してきた。幸い信大に帰ってきて心臓移植の慢性拒絶反応 (coronary vasculopathy) に関する研究をすすめ、また外科学第二講座では、がんの研究が盛んに行われていることから、長年構想していた心臓粘液腫の研究を推進した。その成果を、学会や論文として発表しているうちに全国から心臓腫瘍が送られ、中山 淳教授に教えを請いながら勉強していった。このような積み重ねから、「わが国における心臓腫瘍の臨床的研究」が科研費に採択され、その一環として本書を出版することになった。

心臓腫瘍は、循環器を専門とする医師でも生涯経験することが少なく、かつて、年間1例でも心臓腫瘍の手術をする病院は一流の施設といわれたこともある。また、心臓腫瘍は、体系的な研究の対象とはならず、病理診断がついて症例報告されたあと見捨てられる運命にあった。一概に心臓腫瘍といっても、良性腫瘍、悪性腫瘍があり、心臓粘液腫、乳頭伏線維弾性腫などは、心臓以外の組織で対応する病変がなく、また心臓腫瘍のなかには組織発生からして真の腫瘍かどうか不明な病変も存在する。このように心臓腫瘍は非常に多彩で腫瘍類似病変まで含めると50種類以上の病変が報告されており、これまで1996年に発行された“Armed Forces Institute of Pathology : AFIP 発行の Atlas of Tumor Pathology : Tumors of the Heart and Great Vessels” の分類が標準で、さらに2004年に発表された WHO による心臓腫瘍の分類では、他の臓器の腫瘍分類に準じて分類されており、かならずしもすべての心臓腫瘍を網羅的に分類していなかった。

心臓腫瘍の発生頻度は日本胸部外科学会の年次統計によると年間約500症例が手術対象となっており、手術ができない進行性原発性悪性腫瘍や転移性腫瘍などを加えるとさらに多くの症例がわが国で毎年経験されているものと考えられる。このように心臓腫瘍の報告が蓄積されるにつれて病態や分子生物学的特性が明らかとなり、画像診断などの診断技術の進歩によって生前に心臓腫瘍と診断されて外科的に摘出されたり、悪性腫瘍では化学療法や放射線治療が行われた結果、新知見が多数得られ、なかでも、心臓粘液腫、横紋筋腫や傍神経節腫などでは遺伝子の関与が明らかになり、遺伝子解析が正確な診断やカウンセリングなどに役立っている。また、心臓腫瘍によっては重篤な症状を呈し、突然死の原因となるため心臓腫瘍と診断し適切な治療を行うことはきわめて重要で、診断、治療を中心とした心臓腫瘍に関する成書の出版が待たれていた。そのような観点から心臓腫瘍に関する学問の発展を期待して「心臓腫瘍学」を提唱するとともに、本書を世に出すことは時宜を得たものと考え。前述の那須毅教授から、自分の研究したことを論文として残すのは、その学問分野の発展に寄与するが、新たな学問分野 (“---ology” をはじめること) を見出し、開拓することは至難の業であるとお聞きしたが、さて、「心臓腫瘍学」なるものが、存在し、発展しうるのであろうか。

このような背景によって、信州大学から「心臓腫瘍学」を提唱する気持ちも込めて、可能な限り信州大学の関係者にご執筆をお願いし、中山 淳先生に病理を、池田宇一先生に臨床を中心に、そして悪性腫瘍については吉村康夫先生に編集・校閲をお願いした。また、本書の構成として、臨床にすぐに役立つように腫瘍類似疾患や腫瘍と鑑別を要する疾患も含めて「症例」を重視し、最新の知見を「トピックス」として分かりやすく解説するように努めた。しかし、本書の編者や著者を含めて心臓腫瘍学者というものがこの世に存在しないため、これから読者諸氏のご意見やご批判をいただきながら「心臓腫瘍学」が発展していくように願っている。

最後に、本書を刊行するのにあたり、心臓腫瘍にご造詣が深く長年にわたってご指導いただいた永井良三先生から「刊行によせて」の一文をいただいたことは望外の喜びである。

(信州大学医学部外科学講座，附属病院心臓血管外科 天野 純)

